B 6　民俗服飾に関する基礎的研究（第２報）

パーソナルコンピュータによる図面の作成

県立新潟女子短大　山崎光子

目的、近年　民俗服飾の調査研究は，各市町村においても市史や町史の編纂などのためもあってか，関心が持たれるようになってきたが，それぞれの仕事着の呼称は必ずしもその形態を明らかにしめすものではなく，同名異形や異名同形のものもあるため，地域の実態を他地域と比較して考察するためには形状の把握が不可欠のこととなってきている。しかし仕事着の大半が和服仕立てであり，採寸等にも和裁の知識が求められるほか，図面の作成にあたっては，ある程度の技術の熟練が必要となるため，多くは敬遠されがちとなり他の民具のように形状が記録されることは少なかった。そこで一定の採寸データを入力すれば自動的に仕事着の図面が作成できるよう，パーソナルコンピュータの活用を試みた。

方法、第１報で設けた仕事着の図面の作成法を基準とし、更に仕事着に関するデータを採寸値のほか衿型、袖型、仕立て方、またへりとり、馬のり、身八つ口の有無などの情報の入力を可能にして，それにより各々の仕事着の形状に応じた図面ができるようにした。

結果、上記のデータを入力することにより仕事着の形状図をコンピュータで描きだすことが可能となった。更に第１報で定めた方法によって採寸値等を自動的に記入することも大半は可能となったが、コンピュータの機能からみて、線の太さを描きわけられないことや、斜線にやや難点があった。ここでは一般的な直線裁ちの和服形式の仕事着の作図は容易となったが、過渡期的な曲線裁ちの仕事着の図面を作成するにはいたらなかった。